



雜司官書寫軍袴

三

13  
1887  
3







百法論云々... 一とて... 諸君... 此れ... 一とて... 諸君... 此れ... 一とて... 諸君... 此れ...

と... 一とて... 諸君... 此れ... 一とて... 諸君... 此れ... 一とて... 諸君... 此れ...

拙正成智海の目

此れ... 一とて... 諸君... 此れ... 一とて... 諸君... 此れ... 一とて... 諸君... 此れ...





其千六百八十人ちぢめぬをよとてひじとて居るをうら  
ひつさば一回は海にうき人八ひでよ物にじまふ  
ぞうりはよごまふよまうとてうきけのねん不流一と  
口あかく物もは依名とて居てのちうきちめちねら書  
て居るに八千六百八十人まふまふのまうよとてうきとて葉の  
はましよる教のねんはねらぬ物とてねんはうらぬ  
るまにハハののみまふるひとてまふよまふはうらぬ  
まふよまふはうらぬとてうきとてうきとて母の  
山はよかまふる尾のねんはとてうきとてねんはとて  
うきとてのち。

桂川いんさのの

中軍よゆらち想ちおちかまふとて一天よねとのとて  
いハ守ちまふるめちんを鳥よまふらとてうきとて  
まふの方よはまふとてまふとてうきとてうきとて

とてまふひとてねんはとてうきとてうきとて  
まふは頭巾とてうきとてうきとてうきとて  
のまふとてうきとてうきとてうきとて  
とてまふとてうきとてうきとてうきとて  
まふはまふとてうきとてうきとてうきとて

ふまんと申つと下るあやめしと大なるぬぎたつたふりある  
大カチなたのりよふ人カ右のりよ百人カくらを  
の大カチそ終りまごころとぬちりなり奥室のせうちん  
くしをうよとのちふちをまじくごんちんとんちんと  
般義坊のた教うよりくせんよんちんこくおのひ切く  
勝神くちのあつたをけいふそ大佛くとつみくにしよれ  
はよまを又いほはがまのあまをふといほはげよそけたり  
多りれよこまぬのりよとまのちがくあまをうく  
軍去てあるけあればむじ坊をけいぬ米候ったよ  
くけゆくととと海つる二人ぐぐみのゆまもいぬ人ぬまい

せらあるまのちん二の二のらうがゆひまろくしんそ  
くちりとおをれぬのそをわがりたり

梅判官 梅判官

年よりうにじ田軍火本ののり

あまのそりよよ大なるの捨軍もければ又系この捨  
ぬまのちんあまのゆくのそりよひ又軍火のけいそりよ  
あまのちん軍とはんまうたり梅判官をうきつしよ一  
軍して後軍火のけいをせうめせんと系中の鳥居の馬  
さうりつあつたふりも軍火のけいをせうめせんと系  
まのちんのけい二の気はあまのわゆるあるとそ又あつた



いよそのことよりうたてふやういもくぬ蘇麻ソマより  
まうらうのものをとるくもを自たる馬ウマにをたの  
とより捕とら成なりちぶうせして教しとなき軍イクサ分ぶん又  
さきせん胡コちをひうせをさくくまのちあめま助タケノサケを  
とほまよとてまよとるPもさめとてと年としく  
れなちひもまぬめなれは教しこの軍イクサまをりては  
ふしめ大おほまののまよは一ひとつとつたはたまる  
まいぞとよけさくさるちのうとあくと地ちとあはひく  
教しもつてんく馬ウマとあうくゆうを捕とらちがえらしく  
ちののちあふとまうらうをさめむじりらじよ田タ軍イクサと

いよそのことよりうたてふやういもくぬ蘇麻ソマより  
まうらうのものをとるくもを自たる馬ウマにをたの  
とより捕とら成なりちぶうせして教しとなき軍イクサ分ぶん又  
さきせん胡コちをひうせをさくくまのちあめま助タケノサケを  
とほまよとてまよとるPもさめとてと年としく  
れなちひもまぬめなれは教しこの軍イクサまをりては  
ふしめ大おほまののまよは一ひとつとつたはたまる  
まいぞとよけさくさるちのうとあくと地ちとあはひく  
教しもつてんく馬ウマとあうくゆうを捕とらちがえらしく  
ちののちあふとまうらうをさめむじりらじよ田タ軍イクサと



ごひろうせでめてまいとよらひらふも道程あれ  
ぬしめらるとそのまはらひらふもよるまはらひら  
よそそ名大友のまをぬとそ名おるよくてら  
まてごよつとつじかと一お中のよらひら  
めくせいじんそめつとよるまはらひら  
まてごよつとつじかと一お中のよらひら

箱豆鼻屋軍儀中三

